



SIP

戦略的イノベーション創造プログラム
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program



戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期課題 「デジタル・シティズンシップ・シティ：公共的対話のための学校」 キックオフシンポジウム実施要項

1. NICE の趣旨

このたび広島大学教育ビジョン研究センター（EVRI）は、内閣府が実施する「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」の第3期課題「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」に採択されました。採択テーマは「デジタル・シティズンシップ・シティ：公共的対話のための学校」（通称 NICE）（研究開発責任者：草原和博）です。

NICE とは、本テーマのミッションを表す4つの文章の頭文字です。

Networking between schools （学校を結びつける）¹⁾

Initiating dialogue among schools （学校間の対話を促進する）²⁾

Creating digital public spheres （デジタル公共圏を構築する）³⁾

Educating democratic citizens （民主的市民を育成する）⁴⁾

註：具体的には、以下のことを目指します。

- 1) 対面で学んでいる学校と学校を、そして地域社会や家庭を含む多様な学びの場を結びつけます。
- 2) 学校間で関心を共有したり、利害が対立したりする公共的課題を取り上げて、対話します。
- 3) 公共的課題に関わる多様な声に共感したり、自ら声を上げたりできるデジタルな対話の場を作ります。
- 4) 公共的課題の背景や影響を考察し、解決のための判断基準を構想、実践できる市民を育てます。

NICE では、デジタル空間を媒介にして子ども・市民が公共的対話を行い、公共的課題の解決に参画できるシティズンシップの育成を目指します。具体的には、デジタル公共圏の構築を支える①カリキュラムと教員研修プログラムの開発、②社会制度と心理的基盤の構築、③遠隔教室の対話を収集し、論点を教師と子どもにフィードバックする AI 学習支援プログラムの開発を行います。なお、NICE はこれまで「広域交流型オンライン社会科地域学習」の名称で、東広島市内の小学校を拠点に実施してきました。SIP 採択後は東広島市での研究開発の成果をもとに、全国各地の自律的な拠点づくりを支援していく予定です。

2. キックオフシンポジウムの目的

NICE の理念及び初年次の成果報告を行うとともに、今後の計画をご提案します。

本報告と計画に対して NICE の取組に関心を持つ皆さまからご意見・ご提案をいただくことで、NICE の展望と社会実装の可能性を議論します。

3. 主催

広島大学教育ビジョン研究センター（EVRI）

4. 開催方法・日時・場所

開催方法：対面とオンライン（Zoom）によるハイフレックス開催

日時： 2024年2月23日（祝・金）14:00～17:00

場所： 広島大学教育学部第三・四会議室

5. プログラム

14:00-14:10 趣旨説明

14:10-14:40 基調講演「人文社会科学分野の SIP の可能性」

小林 信一（広島大学副学長，人間社会科学研究所長）

14:40-15:45 概要説明及び成果報告

(1) NICE は何をしてきたか，何をを目指すのかー越境する教室・デジタル公共圏ー（草原和博）

(2) 子どもは NICE 授業から何を学んだかー異質な他者の認知と自己省察の深化ー（川本吉太郎ほか）

(3) 公教育制度から見た NICE の可能性ー教育長等への聞き取り調査の結果からー（滝沢潤）

(4) AI 技術から見た NICE の可能性ー音声認識技術の遠隔教育への活用課題ー（渡辺健次，隅谷孝洋）

(5) 海外先進例から見た NICE の課題ー学校を中心とする市民生態系の観点からー（金鍾成）

(6) プリミティブな NICE の取組から見えてくるドラスティックな教育改革の戦略（川口広美）

休憩

15:55-16:50 関係者・有識者のコメントと意見交換

16:50-17:00 まとめ「NICE に期待すること」

西岡 加名恵（京都大学教授，サブプロジェクトディレクター：SPD）

終了後 1 時間程度の意見交換会・懇親会を開催します。ご自由に参加いただけます。

6. その他

左の QR コードより，NICE の特設ページやこれまでの取組の詳細をご覧ください。

右の QR コードより，キックオフシンポジウムへの参加申し込みができます。

申込の締め切りは，2024年2月16日（金）です。



NICE 特設ページ



参加申し込みフォーム

<お問い合わせ先>

広島大学教育ビジョン研究センター（EVRI）

（E-mail）evri-info@hiroshima-u.ac.jp

（電話） 082-424-5265

コメントをいただくご来賓の方々（一部調整中のため変更の可能性もございます）

<行政関係者>

高垣 廣徳 様
東広島市長

<教育関係者>

阿部 由貴子 様
広島県教育委員会学びの変革推進部長，（兼）教育センター所長
向井 秀則 様
東広島市立三ツ城小学校長（東広島市小学校校長会 会長）
小迫 賢志 様
東広島市立高美が丘小学校長（同校は NICE 授業への最多参加校の1つ）
沖 秀治 様
東広島市教育委員会学校教育部指導課情報教育推進室長

福 宏人 様

鹿児島県徳之島町教育委員会教育長（『学校力が向上する遠隔合同授業－徳之島町から学ぶへき地・離島教育の魅力－』の編者のお一人）

佐々木 恵美 様

鹿児島県徳之島町立花徳小学校長（同校は NICE 授業に県外から参加経験あり）

<有識者>

緒方 広明 先生

京都大学教授（ご専門は，教育データサイエンス，学習支援システム）

篠原 岳司 先生

北海道大学准教授（ご専門は，公教育制度，教育行政学）

豊田 光世 先生

新潟大学准教授（ご専門は，環境哲学，合意形成，対話教育）

星 瑞希 先生

北海道教育大学札幌校講師（ご専門は，歴史教育，社会科教育学）

玉井 慎也 先生

北海道教育大学釧路校講師（ご専門は，歴史教育，社会科教育学）

これまでの学び



- 大小様々な規模の学校の自立
- 知識・スキルの伝達
- 独立した教室空間
- リアルで固定化した関係
- 教師と子ども

Society5.0
の公教育

これからの学び

- 規模の異なる学校の協働
- 公共的課題の対話
- 越境する教室空間
- デジタルによる柔軟な結合
- 多様な市民の包摂

共同研究開発



戦略的イノベーション創造プログラム(SIP) 第3期課題 「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」

デジタル・シティズンシップ・シティ：公共的対話のための学校

1. カリキュラムの開発

- デジタルを媒介にして①他者に考えを伝達し、②他者と意見を調整し、③他者としくみを構想し、④他者の提案を批評できるシティズンシップを育てます
- シティズンシップを育成するために、地域の公共的課題を取り上げ、対話します。そのための社会科学&総合的学習の授業と教員研修プログラムをつくります

2. 社会基盤の開発

- デジタルを媒介にしてシティズンシップを育成する授業を保護者や市民に開きます
- 学校を拠点にして、地域の公共的課題について大人と子どもがともに学び、対話することのできるシティをつくります

3. AI学習支援技術の開発

- 離れた学校・離れた教室の意見を自動で収集・分類し、結果を学習者にフィードバックするAIプログラムと装置を開発します。複数言語にも対応します
- AIが、学習者の意思決定や政策提言を支援するデータを提供します

